

事業名		夏休み子ども・中高生スペース		
予算	歳入予算(円)	歳入実績(円)	歳出予算(円)	歳出実績(円)
平成3年度			報償費312,000 需用費 48,000 委託料141,000	報償費256,600 需用費 14,970 委託料110,338
令和4年度			報償費369,000 需用費 53,000 委託料123,000	報償費 24,000 需用費 57,502 委託料 57,200
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則		
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通して学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」		
事業目的	学校教育と社会教育の連携を強化するため、社会教育の現場を所管する公民館においても、夏期一斉閉庁期間中の「子どもの居場所づくり」を行うとともに、子どもの教養や想像力を養う事業を展開する。		持続可能な開発目標 (SDGs)	
事業内容	開催頻度	年に1回(8月8日~13日)		
	新規・継続	継続	実施主体	市
	実施対象	市民	参加者数	延340人
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価
	＜企画・計画性＞ 実施するにあたって企画を深められたか 計画的に実施することができたか	▼従来の取り組みに加えて、令和4年度は、世界の恒久平和の願いを含め、ウクライナに関する協働イベントを企画した。		公民館 A 公運審 A 全体 A
	＜周知＞ 市民に周知されているか	▼広報こまえ、教育委員会ホームページに掲載のほか、市内各小中学校へ家庭数分のチラシを配付した。高校生の参加者が少なく、周知方法等の検討が必要である。 ▼事前申込制の講座では、全ての講座で定員を超える申し込みがあった。		公民館 B 公運審 B 全体 B
	＜実施・運営＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	▼学習や学びのフリースペースでは、各団体の協力を得ながら、児童・生徒の見守りを行い、安全な事業の実施に努めた。 ▼コロナ禍での実施となったため、各会場で手指の消毒、検温、名簿記載のほか、子ども食堂では簡易パーテーションを設置するなど、感染症対策を徹底した。		公民館 B 公運審 B 全体 B
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	▼子ども・親子向けの体験教室のアンケートでは、9割以上の参加者から「大変良かった」「良かった」との回答をいただいた。		公民館 A 公運審 A 全体 A
	＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	▼学校の一斉閉庁期間において、またコロナ禍において、多様な講座やフリースペースを実施し、子どもたちの居場所を提供できた。		公民館 A 公運審 B 全体 B
今後の課題	▼遊びのフリースペースは小学生のみが利用しているため、中高生の利用を促すとともに、小中高生の交流という視点を取り入れて事業展開を図る必要がある。 ▼高校生の参加者を本格的に増やしたい場合は、高校生を対象とした講座等を検討する必要がある。 ▼学びのフリースペースにおいて、自習だけではなく、他者から教わる空間も別途用意できないかなど新たな取組を検討しても良い。 ▼参加者向けのアンケートについて、フォーマットを統一するとともに、次回の改善点を把握できるような一歩踏み込んだ質問項目を加える必要がある。			
総合評価	▼事業の企画や計画性について、事業全体を通じて俯瞰的に検討できるようにしていただきたい。 ▼ウクライナのチャリティイベントや、様々な関係機関と連携した講座は評価できる。こういった新しい取り組みについては、今後も継続していただきたい。 ▼高校生を対象とした場合の需要と供給について、改めて考えていただきたい。 ▼「働き方改革」が求められている時代に、狛江市立学校の夏季一斉閉庁期間中に実施することについて、改めて本事業の目的やその必要性について、公民館としても検討していただきたい。			